

3-2 中心経営体を支援する地域営農の確立

成果の要約

- 1 地域営農を支援する体制(指宿市・農業委員会・J Aいぶすき・県農政普及課指宿市十二町駐在)が整った
- 2 新西方地域の営農の現状が年代別耕作者地図で明確になり、農地の現状が見える化できた
- 3 地域の目標へ向けた話し合い活動の場が設定され、課題が抽出でき、いろいろな仕組み作りが検討できた

1 対象

- (1) 新西方野菜園芸振興会(環境整備会)
27人

2 課題を取り上げた理由

- (1) 高齢化や後継者不在等により、生産者数が減少傾向にある。
- (2) オクラ、スナップ、ソラマメを中心に、畑かんを利用した営農に早くから取り組んできた地域であり、農家の中心的メンバーである野菜園芸振興会が地域全体への影響力を持っている。
- (3) 地域内の農地は約110haで、相続未登記農地が多く、空いた農地があっても担い手農家に引き継がれない状況が出てきている
- (4) オクラ+豆類の農家が多く、農地の面は狭いため、大規模な農地の集約等は進みにくい。ただ、霜の降りないほ場もあり、気候的には恵まれた農地であるため、法人等も参入を希望している。
- (5) 地域では、いち早く人・農地プラン作成に取り組み、新西方地域のみでのプランの作成を行った。若い中心経営体が23人いる。ただ、地域の農業の未来については具体的には話し合いがされていない。
- (6) 地域には新規参入で農業を始め、新規就農者の研修受け入れを行っている農家があり、担い手の確保・育成に積極的である。
- (7) 地域から、新たな若い農業委員とベテランの農地利用最適化推進委員を推薦したため、意欲的に活動を始めつつある。
- (8) 人・農地プランを進め、人・農地の課題を解決する体制を整備する必要がある。

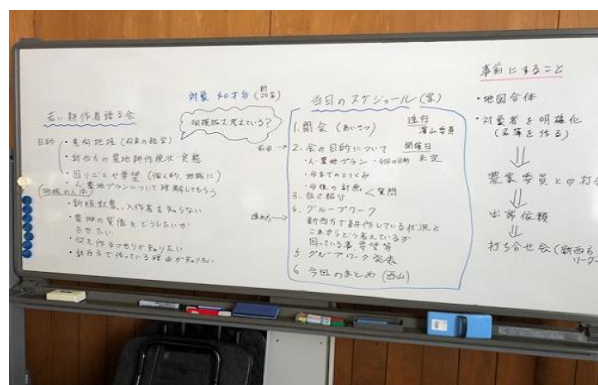
3 活動の内容及び成果

- (1) 推進体制の整備
ア 担い手アクションサポートチーム会の中

に人・農地プランを推進する班(農業委員・市・農業委員会・J A・県農政普及課)を結成し具体的な推進チームとした。話し合い等を実施する際は必ず会の目的・目標や具体的な進め方、地域への根回し、役割分担等について作戦を練り進めている。

イ 活動内容は、次の内容である

- ・話し合い活動の推進方法について
- ・人・農地プラン推進モデル地区の設置・検討
- ・地区別話し合い活動の実施内容について
- ・プランの見直し検討について



作戦会議(目的・目標の共有と進め方検討)

(2) 新西方地域の体制

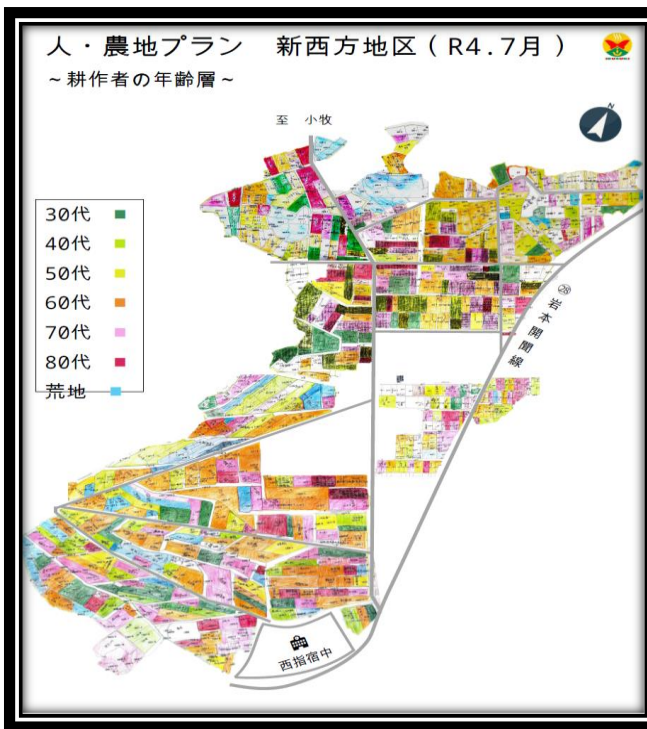
コロナ禍であるため、全農家を集めての検討は難しいことから、地域の農業の担い手である新西方野菜園芸振興会を対象として話し合いを進めた。園芸振興会は環境整備会(水土里サークル)も担っている。新西方地域での話し合いを行う際は、園芸振興会役員と環境整備会役員と推進チームでの打ち合わせを実施し、地域の意向を反映した話し合いを実施するように工夫した。

(3) 具体的活動(地域農業の現状を見える化)

地域の農地の耕作状況を見える化するために耕作者の年代を色塗りし耕作者の名前を入れた地図を振興会全員で作成した。(3回)



振興会で久しぶりの話し合い、色塗りも楽しい



作成した年代別の地図 (耕作者名も記入)

(4) 具体的活動

新西方農業の未来を語る会の開催

(地域との合意形成 リーダー会)
振興会リーダーと活動の反省及び今後の活動について合意形成を図りつつ、進めていった。



リーダー会での報告及び今後の活動検討

新西方農業の未来を語る会

〇会の目的

耕作者地図を作って、地域の農地をどう活かしていくか
対象 新西方圏芸振興会を中心に検討

〇地域の農地の現状は

- ・色塗りすると60~70代が多い
- ・年をとらないと貸さない
- ・また貸しの、また貸しがあり、誰が作っているかわからない
- ・農地の事について話す機会がない
- ・農地の貸し借りについて知らない、手続きが難しい
- ・隣の畑の人や親戚に貸すため、農地を貸したいという話が上がってこない (農業委員)
- ・このままでは、作り手がいなくなるのでは

耕作者地図の作成

今の現状を地図で確認

個人プレーでなく団体プレーで



〇今後は

- ・地域の人だけでなく、入り作している人や新規就農者の意見も聞きたい
- ・農地の貸し借りの仕組みを考えたい
- ・連作しないくみや、農地の集積できる仕組みを考えたい (儲かるしくみ)

地域計画(目標地図)を作ることで

新西方の農地を未来につなげる

振興会メンバーから出た地域の農地の現状と今後の方向を受けて.....



(5) 具体的活動

新西方農業の未来を語る会(若者編)の開催

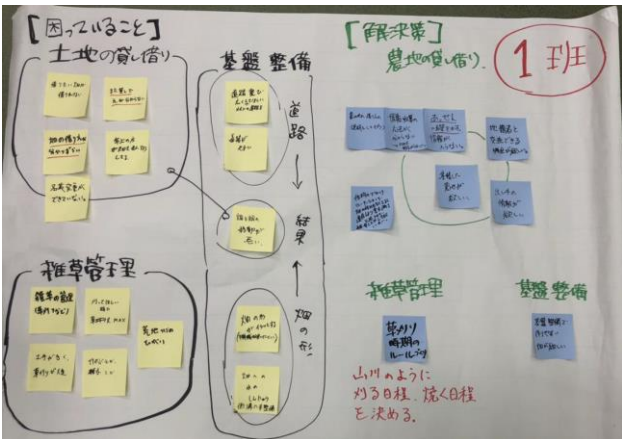
(若い中心経営体や入り作している人の意見を聞く)



若い中心経営体や入り作している新規就農者



班ごとにワークショップで検討結果を発表



付箋紙でそれぞれの意見を出す

	1班	2班	3班
困っていること	土地の貸し借り ・借りた・貸すに悩むことが多い ・土地の貸し借りが難しい ・借り手が少ない ・地主が土地を貸さない ・地主が地主を悩ませている ・地主が地主を悩ませている ・地主が地主を悩ませている	農地 ・土手が高い ・竹が多い ・土手が崩れる心配がある ・ゴミが土手に残っている ・農地が荒れている ・農地が荒れている	農地 ・借り手が少ない ・借り手の選別の難しさ ・農地が荒れている ・農地が荒れている ・農地が荒れている
	農業経営 ・経営が難しい ・経営が難しい ・経営が難しい ・経営が難しい	農業経営 ・経営が難しい ・経営が難しい ・経営が難しい ・経営が難しい	農業経営 ・経営が難しい ・経営が難しい ・経営が難しい ・経営が難しい
解決策	土地の貸し借り ・農地の借り手の確保を促す ・農地の借り手の確保を促す ・農地の借り手の確保を促す	農地 ・土手を全面コンクリート ・土手を全面コンクリート ・土手を全面コンクリート	農地 ・農地の借り手の確保を促す ・農地の借り手の確保を促す ・農地の借り手の確保を促す
	農業経営 ・農業経営のサポート ・農業経営のサポート ・農業経営のサポート	農業経営 ・農業経営のサポート ・農業経営のサポート ・農業経営のサポート	農業経営 ・農業経営のサポート ・農業経営のサポート ・農業経営のサポート

3班のまとめ(困っていること・解決策)

若者編では、農業をやっている上で困っていることやその解決策について3班に分けて検討した。地域リーダーの考えとは違った意見も多く出された。

その中でいろいろな農業の情報が入りにくいという意見があったため、2回目には各種施策についても関係機関から説明し理解を求めた。

申請しないと、農地の斡旋もしてもらえないという事も知らない状況であった。

若者編の開催後、農業委員の働きかけにより、若い耕作者のライングループができ、情報共有の場を作ることができた。今後は農業委員から農地の斡旋等の情報、農業資材の等の情報も提供される予定。

(6) 具体的活動

新西方農業の未来を語る会(合同編)の開催

(地域リーダーと若者とのマッチングの場づくり)

- ・お互いを知ることが一番の目標
 - ・園芸振興会員と若手耕作者の未来を考える会 1月18日実施。
 - ・耕作地図を基にした地権者と若手のマッチング
 - ・地域の課題と未来を考える場づくり
- テーマ「地域の農地を維持していくためには」



- ・地域の目標や姿の検討
(課題解決へ向けた取組の役割分担等の検討)
- ・新西方地域営農のしくみづくりの検討
(新西方地域営農支援センターの具体化)

4 今後の課題

- (1) 園芸振興会員と若者での地域農業の課題と目標共有
- (2) 農地を未来に継承するしくみづくりの検討
- (3) 新西方地域の新規就農者を育成するしくみづくり検討



5 担当した職員

- 振興局農政普及課 上赤 連携メンバー
- 指宿市役所農政課 前田, 吉元
- 農業委員会 濱田